

武蔵国分寺跡資料館だより

Musashi Kokubunji Temple Remains Museum Newsletter

編集・発行・印刷

見る／学ぶ／訪ねる／
武蔵国分寺跡資料館

Musashi Kokubunji Temple Remains Museum

【住所】〒185-0023 東京都国分寺市西元町1-13-10
【電話】042-323-4103 【FAX】042-300-0091
【E-mail】museum@city.kokubunji.tokyo.jp
【HPアドレス】
http://www.city.kokubunji.tokyo.jp/shisetsu/kouen/1005196/1004239.html

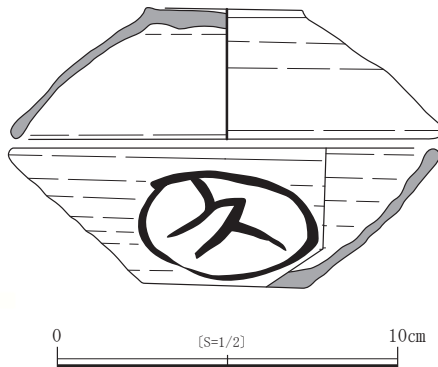
2023.6
第51号



常設展 展示資料の紹介



「㊦」墨書土器（下）（10世紀）（写真1）



墨書土器実測図（図1）



第616次調査位置（図2）

「㊦」墨書土器は、東山道武蔵路が340mに渡り発見された泉町地区の南約100mの位置から出土した須恵器の坏です（図2★印）。この調査地では、東山道武蔵路の3期の道路の変遷、竪穴住居、不正楕円形の堀込（以後：特殊遺構SX281）などの遺構が見つかりました。特殊遺構SX281は、東山道武蔵路の第3期の西側溝が埋没した後に作られたもので、「㊦」墨書土器は、堀込みの一部の極端に硬化した部分に2つの坏が口縁を合わせて潰れた状態で埋まっていた（写真2）。

「㊦」という墨書は全国的にも類例が少ないですが、坏を合わせ口にして埋める行為は、祭祀遺構などに見られます。奈良・平安時代は、災いをもたらす魑魅魍魎や伝染病などは道を通じて入ってくると考えられており、それらが侵入しないように都の四隅に神をまつる祭祀があったと言われています。『続日本紀』天平7年（735）8月条には、大宰府で流行した疫病（天然痘）の拡大を防ぐために山陰道諸国に「道饗祭」を行うようにという

記述や、宝亀元年（770）6月条には、疫病を防ぐ神を都および畿内と畿外の境界10か所であつたという記述がみられます。また、「延喜式」などによると、平安京では、都の四隅に八衢比古、八衢比売、久那斗の三神をまつる「道饗祭」が行われており、墨書で書かれた「㊦」は「久那斗」を表すものだった可能性が想定されています。

墨書土器が発見された場所から、南へ約150mの位置から先は武蔵国分寺の広大な寺院地が広がっており、この場所で祭祀を行ったのは、清浄な寺院空間へ邪気が入るのを防ぐ目的があったと考えられています。

この調査地は、平成23年度に市立歴史公園として整備され、東山道武蔵路の側溝、竪穴住居、特殊遺構SX281を舗装の塗分けで平面表示しています（写真3）。資料館の資料とともに現地も合わせてご見学ください。

（酒井 美帆）

（参考・引用『古代道路を掘る』平成29年 国分寺市教育委員会発行）



須恵器坏出土状況（北から）（写真2）



市立歴史公園 東山道武蔵路跡（写真3）

明治期の産業遺産 旧花沢橋の鋼材

おたかの道湧水園内の長屋門東側に『旧花沢橋の鋼材』を展示しています(写真4)。花沢橋は、JR 中央線国分寺駅西側の線路をまたぐ道路橋で、中央線の前身である甲武鉄道が明治 22 年(1889)に開通して以来の歴史のある橋です。鋼材は、二代目の橋の一部として昭和 2 年(1927)から昭和 51 年(1977)にかけて使用されていました(写真5)。

銘板に刻まれている文字

(右) BRAITHWAITE & KIRK
MAKE RS
STK1907
WESTBROMWICH

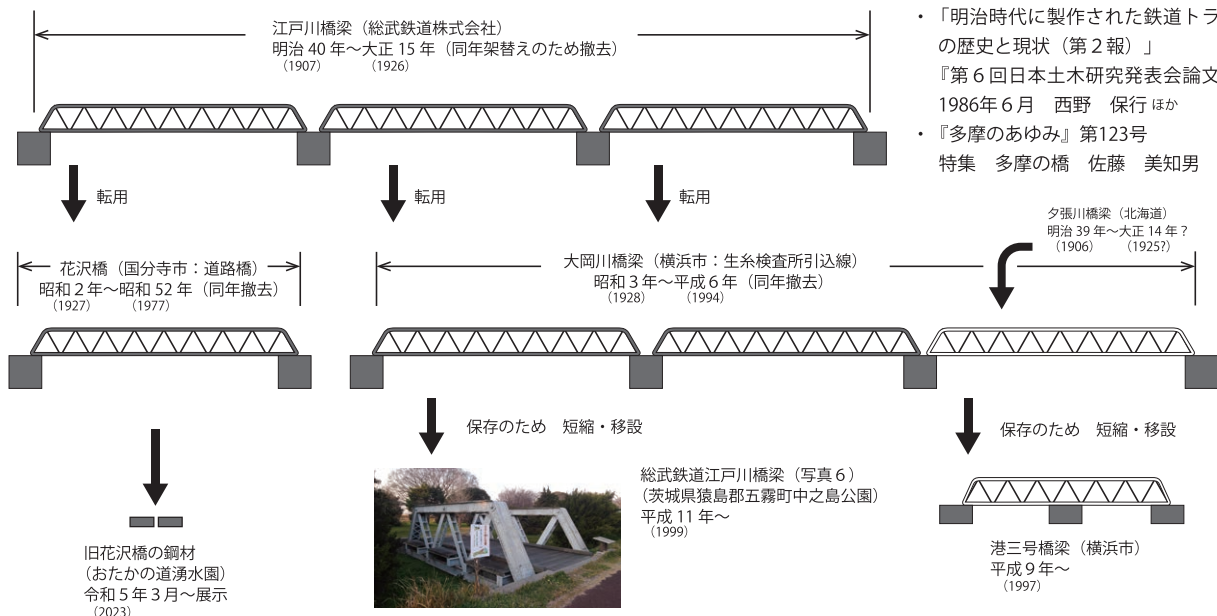
(左) FRODINGHAM IRON & STEEL Co Lt...
ENGLAND

橋の構造は、ポニーワーレントラス橋という構造で、銘板から、明治 40 年(1907)に STK(総武鉄道株式会社の略)が、イギリスの造船会社の BRAITHWAITE & KIRK へ発注したイギリス製の鋼材であることがわかります。

●貴重な鋼材

旧花沢橋と同じ銘板・同じ構造の橋が、明治 40 年(1907)に総武鉄道小岩～市川間で横断する江戸川に架設された「江戸川橋梁」です。「江戸川橋梁」は、3連の100 フィート・ポニーワーレントラス橋で、大正 15 年(1926)に江戸川から撤去されました。そのうちの1連が、国分寺市の道路橋「花沢橋」として転用されました。

当時の日本は、鉄鋼の国産化は進展していたものの鉄道橋梁の鋼材の多くを外国からの輸入材に依存していました。貴重な強度の高い鋼材は、車両の重量化などの理由により架け替えられた後、全国各地で鉄道橋、道路橋などへ転用されました(図3)。



同銘板のついた橋の変遷(図3)(港三号橋梁の解説板の図をもとに作成)



旧花沢橋の鋼材(写真4)



旧花沢橋(昭和2年)(写真5)

●旧花沢橋の面影が残る橋・鋼材

「江戸川橋梁」の他の2連は、昭和 3 年(1928)から横浜市の生糸検査所引込線「大岡川橋梁」として使用され、平成 6 年(1994)に撤去されました。現在は、江戸川流頭部にある茨城県猿島郡五霞町の「中之島公園」内に橋長を縮め人道橋として保存されています(写真6)。

また、東京駅の丸の内駅舎(東京ステーションギャラリー内)に建設当時の鉄骨がむき出しになっている部分に「FRODINGHAM IRON & STEEL Co.Ltd ENGLAND」と印された鋼材があります。(酒井 美帆)

参考文献:

- ・「明治時代に製作された鉄道トラス橋の歴史と現状(第2報)」『第6回日本土木研究発表会論文集』1986年6月 西野 保行 ほか
- ・『多摩のあゆみ』第123号 特集 多摩の橋 佐藤 美知男

国分寺市文化財ふれあいカレンダー【令和5年度事業予定】

月	日(曜日)	行 事
4	22日(土)	●端午の節句飾り 【旧本多家住宅長屋門】(～5月7日まで)
	29日(土・祝)	●子ども向けイベント「子ども歴史クイズラリー」(～5月7日まで)【おたかの道湧水園】※
7	25日(火)	●武蔵国分寺跡資料館夏季企画展示「発掘された国分寺市2023」(～9月18日まで)
8	5日(土)	●子ども向けイベント「拓本うちわを作ろう」【おたかの道湧水園】※
	26日(土)	(仮)ふんじ子どもフェスタ2023
9	23日(土・祝)	●こくふんじジュニア歴史検定 【いずみホール】※
	下旬	●十五夜飾り 【旧本多家住宅長屋門】
10	10日(火)	●市内文化財めぐり ※
	中旬	●武蔵国分寺跡資料館秋季企画展示「(仮)中藤新田分水跡速報展」(～12月中旬まで)
	12日(木)	●武蔵国分寺跡・国史跡指定日
	18日(水)	●おたかの道湧水園・開園記念日 おたかの道湧水園無料公開
	下旬	●十三夜飾り 【旧本多家住宅長屋門】
11	28日(土)	●子ども向けイベント「謎解きビンゴ(仮)」(～11月5日まで)【武蔵国分寺跡資料館・史跡武蔵国分寺跡】
	5日(日)	国分寺まつり ●史跡ガイドボランティア現地説明(僧寺金堂跡・真姿の池湧水群ほか) ●おたかの道湧水園無料公開 ●子ども向けイベント※
12	26日(日)	●市外文化財めぐり「相模国分寺ほか」(神奈川県海老名市ほか)※
	1日(金)	●ヨウカゾウ展示(～8日まで) 【旧本多家住宅長屋門】
	6日(水)	○ふるさと文化財愛護ボランティア養成講座①【いずみホール】※
	13日(水)	○ふるさと文化財愛護ボランティア養成講座②【いずみホール】※
	20日(水)	○ふるさと文化財愛護ボランティア養成講座③【いずみホール】※
下旬	●正月飾り・羽子板展示(～令和6年1月14日まで) 【旧本多家住宅長屋門】	
1	6日(土)	●繭玉飾り(～14日まで)【旧本多家住宅長屋門】
	10日(水)	○ふるさと文化財愛護ボランティア養成講座④【いずみホール】※
	20日(土) 21日(日)	多摩郷土誌フェア 【立川市女性総合センターアイム】
	26日(金)	文化財防火デー
	31日(水)	○ふるさと文化財愛護ボランティア養成講座⑤【いずみホール】※
2	1日(木)	●ヨウカゾウ展示(～8日まで)【旧本多家住宅長屋門】
	14日(水)	○ふるさと文化財愛護ボランティア養成講座⑥【いずみホール】※
	中旬	●雛飾り(～3月3日まで)【旧本多家住宅長屋門】
	21日(水)	○ふるさと文化財愛護ボランティア養成講座⑦【いずみホール】※

- ・記号説明：【 】→会場 ※→事前申込制
- ・内容、日程は変更することがあります。
- ・事業の詳細は市報、または市のHPをご参照ください。

お問い合わせ先 国分寺市教育委員会 ふるさと文化財課

185-0023 東京都国分寺市西元町1-13-10〈電話〉042-300-0073〈FAX〉042-300-0091



「発掘された国分寺市 2023」

市内では、昭和49年以降、開発に伴う遺跡の発掘調査が毎年10～20件ほど実施されています。本企画展は令和2年度に行った発掘調査の成果をとりあげ、出土した遺物とともにパネル展示で紹介します。

【日 時】 令和5年7月25日(火)～9月18日(月・祝)

【開館時間】 午前9時～午後5時

(入園は午後4時45分まで)

【会 場】 武蔵国分寺跡資料館 講座室

【入館料】 「おたかの道湧水園」の入園料が必要

夏休み子ども体験イベント
「拓本うちわをつくろう」

瓦などの凹凸模様を色鉛筆で写しとる乾拓を体験をして、オリジナルのうちわを作ります。

【開催日】 令和5年8月5日(土)

【時 間】 ①午前10時～ ②午前11時～
③午後1時～ ④午後2時～

【会 場】 おたかの道湧水園内

【定 員】 各回6名程度

【対 象】 中学生以下

※小学生3年生以下は保護者同伴

【費 用】 無料

【問合せ】 042-300-0073

※詳細は国分寺市市報(7/15)・市ホームページでお知らせします

おたかカフェ改修工事完了のお知らせ

史跡の駅おたかカフェはテラス席を増設し、バリアフリートイレへのアクセスを改善する改修工事を3月に行い、「湧水に開く」をテーマに建築家能作淳平氏により開放感のあるカフェにリニューアルされました。



来館者数

2009年10月18日～2023年3月末日

来館者数累計 176,151名

多くのご来館ありがとうございました

【1月～3月の学校見学】

	学校数	人数
小学生	2	81
高校生	1	27

【来園校】
和光高校(3年生)、市立十小(6年生)、
市立四小(4～6年生)

月	来館者数	開館日数
1	583	24
2	729	24
3	728	27
計	2,040	75

○来館者数は、おたかの道湧水園の入園者数

武蔵国分寺跡資料館ご利用案内



交通のご案内

【電車】JR国分寺駅下車/徒歩約20分 ○JR西国分寺駅下車/徒歩約15分

【バス】○国分寺市循環バス『ぶんバス』万葉・けやきルート「史跡武蔵国分寺跡」下車/徒歩約8分

○国分寺市循環バス『ぶんバス』日吉町ルート「泉町一丁目」下車/徒歩約8分

○国分寺駅南口より「京王バス」系統番号<寺83>・<寺85>乗車「泉町一丁目」下車/徒歩約8分

※新型コロナウイルス感染症対策のため、引き続き手指の消毒にご協力ください。マスクの着用は利用者個人の判断としています。

■開館時間

午前9時～午後5時(入園は午後4時45分まで)

■休館日

毎週月曜日(祝日・振替休日の場合はその翌日)
年末年始(12月29日から1月3日まで)
※展示替えなどで臨時休館することがあります。

■入園料

資料館に入館するには「おたかの道湧水園」への入園料が必要になります。(入園券は史跡の駅で販売)
一般……………100円(年間パスポート1,000円)
中学生以下……………無料

【入園料の減免規則があります】

- 学校の教育活動で生徒(中学生を除く)、学生及び引率の教職員が入園するとき〔事前(5日前まで)に減免申請書の提出が必要です。〕
 - 身体障害者等及びその介護者が入園するとき〔券売窓口の史跡の駅で身体障害者手帳等の提示が必要です。〕
 - その他教育長が特別の理由があると認めるとき〔事前(5日前まで)に減免申請書の提出が必要です。〕
- ※減免申請書は、国分寺市のホームページからダウンロードできます。

見る 学ぶ 訪ねる

武蔵国分寺跡
資料館

Musashi Kokubunji Temple Remains Museum



ホームページ
二次元バーコード